

えりも町立えりも小学校 1 日防災学校実施報告

● えりも小学校のコンセプト

「自らの的確な判断のもとで、防災・減災行動を取ることができる自立性と自然災害に対して、想定される災害イメージを持ち、具体的な対策を考えることができる情報活用力・創造性」を育む。

● 時間割

- 1 時限 シェイクアウト訓練・防災ウルトラクイズ（全校集会）
- 2 時限 防災車両体験（1～2年生：生活、3～6年生：社会）
- 3 時限 北海 Do 防災かるた（1年生：国語）、新聞紙スリッパ（2年生：図工）
避難所運営体験（3～4年生：総合的な学習の時間）
災害食づくり（5年生：家庭）、生命尊重（6年生：道徳）
- 4 時限 新聞紙スリッパ（1年生：図工）、北海 Do 防災かるた（2年生：国語）、
避難所運営体験（3～4年生：総合的な学習の時間）
生命尊重（5年生：道徳）、災害食づくり（6年生：家庭）

〔連携・協力〕北海道開発局、陸上自衛隊、北海道警察

日本赤十字北海道看護大学 教授 根本 昌宏

北海道地域防災マスター えりも町社会福祉協議会

①防災車両展示（陸上自衛隊）



②防災車両展示（道警）



③防災車両展示（北海道開発局）



④北海 Do 防災かるた



⑤新聞紙スリッパ



⑥避難所運営体験



⑦ 災害食づくり



1 日防災地域学校

1. 実施日 平成30年5月24日（木）

2. スケジュール

学年 校時	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
1 体育館	1 シェイクアウト避難（地震） 2 全校集会 ①校長先生のお話 ②講話(防災ウルトラクイズ)：地域防災マスター					
8:25-9:20						
2	生活 グラウンド		社会 グラウンド			
9:30-10:00	防災車両体験（開発局：照明車、陸上自衛隊：給水車、道警：高性能救助車）					
中休み 10:00-10:15	防災車両見学					
3	国語	図工	総合 体育館		家庭科 家庭科室	道徳
10:20-11:05	Do防災かるた	新聞紙スリッパ	避難所運営（根本教授）		ハイゼックス	生命尊重
4	図工	国語	総合 体育館		道徳	家庭科 家庭科室
11:10-11:55	新聞紙スリッパ	Do防災かるた	避難所運営（根本教授）		生命尊重	ハイゼックス

行事：「シェイクアウト・防災ウルトラクイズ」

日 時 平成30年5月24日（木）

1校時（8：25～9：20）

児 童 全学年 計162名

1 本時の目標

- ・地震発生時の避難方法を知るとともに、迅速な避難を行う。（自律・協働）
- ・災害に対する知識とともに、大切な備えについてクイズを通して学ぶ。（自律・情報活用力）
- ・目標避難完了時間 4分以内（避難開始放送から点呼完了まで）

2 本時の展開（1／1）

時 間	内 容	活 動	授 業 者	児 童
8：25	非常ベル （サイレン）	・放送（教頭） 「地震の避難訓練です。ただ今、地震が発生しました。落下物から身を守るために机の下に隠れてください。」	・放送後、机の下に隠れることを指示する。 ・戸や窓を開け、避難経路を確保。 ・電気は消す。	・指示を聞き、机下等で待機する
8：26	避難開始 （体育館）	・放送（教頭） 「揺れが収まりました。先生の指示に従い、所定の場所に避難を開始してください。落ち着いて行動しましょう。」	・児童を整列させる。 <div>全校朝会のときと同じように、廊下に2列で整列させる。</div>	・避難（廊下は走らせないこと）
8：27	避 難	・整列順の指示 <u>※下記会場図を事前に児童に指導すること</u>	・体育館ステージ前に集合する。	・体育館に入った順番に整列する（時間をかけない）
8：29 （～4分）	報 告	・各学級の報告を受け、校長に連絡する。（教頭）	・児童数を確認し、教頭に報告	・静かに整列、待機 ・ <u>高学年の点呼は代表委員に行わせる</u>
8：30 （30秒）	防災コマーシャルの放送	司会：アナウンスなしで、ステージスクリーンに防災CMを流す	担当：横山・高間	CMを観る
8：31	開式の言葉	司会：「皆さん静かに立ってください。姿勢を正しましょう」 「開式の言葉」 教頭：「ただいまより、えりも小学校 1日防災地域学校 全校集会を始めます。」	司会：ステージ下 教頭：ステージ下	・児童起立
8：32 （5分）	校長講話（移動も含めて5分）	司会：「校長先生のお話」「校長先生お願いします。」 校長：児童着席後 講話	校長：壇上（演題使用）	・防災地域学校についての理解を深める
8：37 （35分）	防災ウルトラクイズ	司会：「続いて、クイズをしながら、防災について、もっと勉強を	・防災マスターの指示より児童の支援	・防災クイズに、○×で参加し、防災

～ 9 : 1 5		<p>したいとおもいます。」「特別講師をお招きしていますので、校長先生よりご紹介いただきます。」</p> <p>校長「本日の講師をご紹介いたします。講師は、地域防災マスターの〇〇さんです。」「〇〇さん、よろしく願いいたします。」</p>	<p>を行う</p> <p>※ P J の補助を横山・高間が行う</p> <p>※ 音響関係は、外山・高橋（美）が行う</p>	の意識を高める
9 : 1 5 (3 分)	児童代表謝辞 (移動も含めて 3分)	<p>司会：「児童を代表して、児童会長が、講師へお礼を申し述べます。児童の皆さんは、静かにその場に立ってください。児童会長：本間わかなさん。」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・司会の合図で全校児童起立 ・ステージ下で、児童会長がお礼をのべる
9 : 1 8	閉式の言葉	<p>来賓が着席したら</p> <p>司会：「閉式の言葉」</p> <p>教頭：「以上を持ちまして、1日防災地域学校 全校集会を終わります。」</p>	<p>司会：ステージ下</p> <p>教頭：ステージ下</p>	児童起立のまま
9 : 2 0	児童退場			

生活科（１・２年）社会科（４～６年）：「防災車両の展示・体験」

日 時 平成３０年５月２４日（木）

２校時（９：３０～１０：１５）

児 童 全学年 計１６２名

１ 本時の目標

- ・防災からくらしを守るために様々な防災車両があることを知り、実際に触れることで、使用の仕方や理解を深めさせる。（情報活用力・自律性）

２ 本時の展開（１／１）

時 間	内 容	活 動	授 業 者	児 童
	移動	教室で、流れを説明し、トイレを済ませて会場に移動する	・流れを説明し、トイレを済ませて移動させる	・流れを理解する
９：３０ （１０分）	車両体験①	給水車（１・２年） 高性能救助車（３・４年） 照明車（５・６年）	・担当者の説明を聞かせる （進め方は、担当教諭で分担して進める）	・会場へ移動する ・説明を聞く
９：４０ （１０分）	車両体験②	給水車（５・６年） 高性能救助車（１・２年） 照明車（３・４年）	・担当者の説明を聞かせる （進め方は、担当教諭で分担して進める）	・会場へ移動する ・説明を聞く
９：５０ （１０分）	車両体験③	給水車（３・４年） 高性能救助車（５・６年） 照明車（１・２年）	・担当者の説明を聞かせる （進め方は、担当教諭で分担して進める）	・会場へ移動する ・説明を聞く
１０：００ 中休み （１５分）	自由参観	興味のある車両を参観させる	・児童の安全に配慮しながら参観させる	・興味のある車両を参観する

３ 注意事項

・担当教諭が中心となって、それぞれのコーナーで終了した際に、ブロックを代表して１名の児童から簡単な感想を述べさせる。

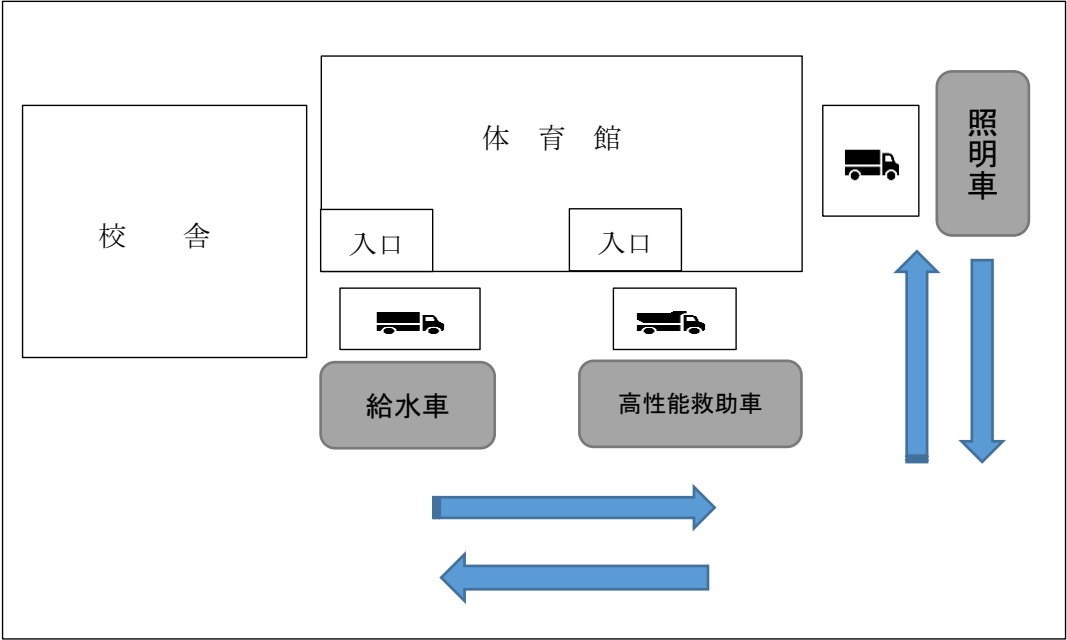
・各コーナーが終了した際に、全員で担当者にお礼の言葉を述べさせる。

雨天時の対応

・雨天時も車両体験は実施します。児童には、事前に雨天でも参観できるように雨具の準備をするように指導してください。

４ 会場図＆ローテーション

時 間	低ブロック	中ブロック	高ブロック
9:30～ 9:40	給水車	高性能救助車	照明車
9:40～ 9:50	高性能救助車	照明車	給水車
9:50～10:00	照明車	給水車	高性能救助車



第1・2学年 国語科学習指導案（略案）

日 時 平成30年5月24日（木）3校時（1年生）・4校時（2年生）
 児 童 えりも小学校1年生 児童25名・2年生 児童28名
 指導者 戸塚 明宏（1年） 瀬川 寛予（2年） 松明 由希（ひまわり1）
 外山 稚子（担外） 山田 苗恵（学校支援員）

- 単 元 名 「北海 D0 防災カルタ」
- 本時の目標 防災カルタを楽しみながら、防災の知識に関心をもつことができる。（探求力・協働性・自律性）
- 本校の育成する資質・能力との関係性
 本単元では、次の3点を目指す児童の姿とし、この中で探求力の育成を図る。

主体的な学び：防災カルタに関心をもち、進んで読み札の内容を聞いて取り札を取っている。
 （興味・関心をもっている）
 対話的な学び：友達と協働しながら、カルタ取りに取り組んでいる。
 （共に課題を解決している）
 深い学び：防災カルタから新しく得た知識を振り返っている。
 （知識を習得・活用している）

4 展 開

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つ か む 1 0 分	<ul style="list-style-type: none"> えりも町の写真を見て、身近にある豊かな自然やその風景を想起する。 海、昆布、えりも岬、百人浜等 東日本大震災の写真を見て、自然は災害を引き起こす側面があることを知り、感想を発表する。 津波、津波後の市街地、避難所での生活等 災害からの自分の守り方を知ろう。 北海 D0 防災カルタの紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 「えりもの写真です。知っているものはありますか。」 「東日本大震災の写真を見てどう思いましたか。」 ※2年生は、上記の内容に簡単に触れ、前時の振り返りを中心に行う。 「災害カルタを使って、自分たちを守るための学習をします。」 	
考 え る 2 5 分	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに、北海 D0 防災カルタに取り組む。 【主】【対】 <p>※生活班を基本に6グループ編成する。 ※読み札は担任が読み、札取りは一斉に行う。 ※絵札を取ったあと、解説を行う。 ※解説終了後、次の読み札を読む。 ※時間まで上記を繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「先生が読んだものに合った絵札をとりましょう。」 「札の説明をしてから、次を読みます。」 ※「読む→取る→解説」の繰り返しで実施すること、切り替えや聞く姿勢について確認する。 ※勝敗のみが目的にならないよう留意する。 	<p>【評】 読み札の解説を聞きながら、進んで防災カルタ取りに取り組んでいる。</p>
ま と め 1 0 分	<ul style="list-style-type: none"> 北海 D0 防災カルタを通して新しく知ったことを振り返る。 【深】 <p>※1年生…発表のみ ※2年生…ワークシートの記入と発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「防災カルタをやったことで、初めて知ったことや、忘れずに覚えておきたいことは何ですか。」 	<p>【評】 防災カルタから新しく得た知識を振り返っている。</p>

第1・2学年 図画工作科学学習指導案（略案）

日 時 平成30年5月24日（木）3校時（2年生）・4校時（1年生）
 児 童 えりも小学校1年生 児童25名・2年生 児童28名
 指導者 戸塚 明宏（1年） 瀬川 寛予（2年） 松明 由希（ひまわり1）
 高間 秀生（担外） 山田 苗恵（学校支援員）

1 単 元 名 「新聞紙スリッパづくり」

2 本時の目標 新聞紙の特徴を生かし、スリッパづくりを行うことができる。（探求力・協働性・自律性）

3 本校の育成する資質・能力との関係性

本単元では、次の3点を目指す児童の姿とし、この中で探求力の育成を図る。

主体的な学び：新聞紙スリッパに関心をもち、進んで新聞紙スリッパ作りを行っている。

〈興味・関心をもっている〉

対話的な学び：友達と協働しながら、新聞紙スリッパ作りに取り組んでいる。

〈共に課題を解決している〉

深い学び：新聞紙スリッパ作りを通して、新しく得た知識を振り返っている。

〈知識を習得・活用している〉

4 展 開

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つかむ8分	① 自然のすばらしさと、自然のおそろしさ（「自然災害」）について知る。 →足をけがさせてしまうかもしれないことに気づく。 ② 課題をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">しぜんさいがいにそなえて、しんぶんしスリッパを作ろう。</div> ③ 学習の流れを確認する。 ・新聞紙スリッパの作り方を知る。 ・班隊形になる。 ・実際に作ってみる。 ・振り返りをする。	・自然豊かな写真と、災害時の写真を掲示し、自然災害の話につなげていく。 ・ICTを活用する。 「自然はすばらしいけど、別の顔もあるんだよ。」 「家の中にいる時に、大きな地震が起こった時、どうしますか？」 「その時、足元はどうなっていますか？」 ※1年生は、上記の内容に簡単に触れ、前時の振り返りを中心に行う。 ・見通しを掲示し、伝える。	
考える30分	④ 新聞紙スリッパを作る。 ^{【主】} ・班隊形になる。 ・パワーポイントに示されている作り方を基に、作っていく。 ・わからないところは、班の中で教え合いながら作業を進めていく。 ^{【対】} ⑤ ④で作った新聞紙スリッパをより頑丈にする作り方を知る。 ※時間が余っていたら、応用編（より頑丈にする作業）を実際に行う。 ※時間が余っていなかったら、実際には作らず、より頑丈にする方法もあることを伝える。 ⑥ 自分の作ったスリッパを履いてみる。	「実際に作ってみましょう。」 ・パワーポイントを使用する。 ・教師も一緒に作りながら進めていく。 ・机間指導し、作業が難しく支援が必要な児童には、サポートをする。 「できあがったら、班の友達と自分が作った新聞紙スリッパを見せ合いましょう。」 ・児童の実態や時間を見ながら、頑丈にする方法を実際にやるのか、伝えるだけにするのかを判断する。 ・パワーポイントを使用する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</div> 新聞紙スリッパに関心をもち、進んで新聞紙スリッパ作りに取り組んでいる。
まとめ7分	⑦ 課題を振り返り、学習をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">身近な新聞紙を使って、身を守るためのスリッパを作ることができる。</div> ⑧ 振り返りをする。 ^{【深】} ・本時の学習でわかったことや初めて知ったことなど、感想を発表する。	「身近なものを使って、身を守ることが大切だね。」 ・今日学習したことの感想を聞く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評</div> 新聞紙スリッパ作りを通して、新しく得た知識を振り返っている。

第3・4学年 総合的な学習の時間 指導案（略案）

日 時 平成30年5月24日（木）3校時
 児 童 えりも小学校3・4年生 児童51名
 講 師 根本 昌宏（日本赤十字北海道看護大学 教授）
 指導者 吉田 大地（3年） 立松 敏樹（4年）
 樫山 一朗（担任） 高橋 美加（担任）
 高橋 友里恵（学校支援員）

- 単 元 名 「避難所運営について」
- 本時の目標 被災時に身の回りにあるもので、より快適かつ安全に眠る方法を知ることができる。
 （情報活用力・協働性・自律性）
- 本校の育成する資質・能力との関係性
 本単元では、次の3点を目指す児童の姿とし、この中で情報活用力の育成を図る。
 主体的な学び：災害を想定し、自分ができることを考え、行動することができる。
 対話的な学び：災害時の課題を解決にむけて、協働しようとする姿勢をもつ。
 深い学び：習得した知識を活用し、自分で行動することができる。

4 展 開 （1/2）

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つかむ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 地震や台風などの災害が起きたとき、どんなことが起きるか考える。【対】 停電 断水 家屋の倒壊 家族と離れてしまう等 災害時は、どこに避難すれば良いかを知る。 ※ハザード・マップを提示し、避難場所を確認 避難所の生活についてイメージを持つ。 避難所の映像を見る。（根本教授準備） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 避難所での眠り方について考えてみよう。 </div>	【担 任】 <ul style="list-style-type: none"> 「災害が起きたときに何が起きると思いますか。」 「地震や台風などの災害がおきて、住む場所が壊れてしまったらどうしますか。」 「寝るときはどうするの？」 「お風呂はどうするの？」 「食事はどうするの？」 「…」 ○講師の紹介 <ul style="list-style-type: none"> 「避難所の生活について、教えてくれる講師の先生をご紹介します。」 	
考える 20分	①避難所では、どのように寝るのかイメージを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・床に寝る ・毛布で寝る など ⇒実際に床で寝る（ブルーシート） ②より快適に過ごすためにはどのようなことができるか考える。【対】 ⇒毛布を敷いて、寝てみる	<ul style="list-style-type: none"> 「避難所ではどのように寝るのかな？」 ・体育館の床に毛布一枚で寝た感想を聞く。 「より快適に寝るためには、どんなことができるか考えてみよう。」 	【評 価】 実体験を通じて、より快適に寝る方法について、考えをだすことができる。
まとめ 15分	③段ボールベッドの設営体験をする。【対】【深】 <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールベッドの設営 ※6～7人のグループを作る 3年 4グループ 4年 4グループ 体育館に8つのベッドを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなで協力しながら、段ボールベッドを組み立ててみよう。」 	【評 価】 協働して、作業に取り組むことができる。

留意事項

※暗幕を使用する。照明はつけない。

※児童のワークシートを準備し、気づいたこと、わかったことをメモできるようにさせる。

第3・4学年 総合的な学習の時間 指導案（略案）

日 時 平成30年5月24日（木）4校時
 児 童 えりも小学校3・4年生 児童51名
 講 師 根本 昌宏（日本赤十字北海道看護大学 教授）
 指導者 吉田 大地（3年） 立松 敏樹（4年）
 樫山 一朗（担外）高橋 美加（担外）
 高橋 友里恵（学校支援員）

1 単 元 名 「避難所運営について」

2 本時の目標 被災時に身の回りにあるもので、けがに対応する方法を知ることができる。
 （情報活用力・協働性・自律性）

3 本校の育成する資質・能力との関係性

本単元では、次の3点を目指す児童の姿とし、この中で協働性の育成を図る。

主体的な学び：災害を想定し、自分ができることを考え、行動することができる。

＜見通しをもって活動している＞＜振り返って自覚している＞

対話的な学び：災害時の課題を解決にむけて、協働しようとする姿勢をもつ。

＜共に課題を解決している＞

深い学び：習得した知識を活用し、自分で行動することができる。

＜知識を習得・活用している＞

4 展 開 （2/2）

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つ か む 1 0 分	<ul style="list-style-type: none"> 避難所で、いちばん手助けが必要なのはどのような人かを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ケガをしている人たちに、どのような手助けができるか考えよう。 </div>	【担任】 <ul style="list-style-type: none"> 「避難所で、手助けが必要な人とはどのような人たちだと思いますか」 「小さな子ども」 「お年寄り」 「けがをしている人」など 	
考 え る 2 0 分	<ul style="list-style-type: none"> けがをしている人たちは、どんなことに困っているのかイメージしてみる。^{【注】} 車いすを使用しなければならないとき 目をけがしてしまい良く見えないとき グループごとに疑似体験する ※3年・4年混合の4グループを編成する。 ※車いす（4～5台）・アイマスク（5セット）・シーネ（8セット）を使ってみる。 ※班の代表に取り組みさせて、周りで様子を観察するなど、タイムマネジメントに留意する。 体験したことで、気づいたことをグループごとに話し合う。^{【※】} 	【講師】 <ul style="list-style-type: none"> 「けがをしている人たちは、どんなことに困っているのでしょうか。」 「実際に体験してみましよう」 「気づいたことを話し合いましよう」 	
ま と め 1 5 分	<ul style="list-style-type: none"> けがをしている人には、どのような手助けができるか考える。^{【※】} ①個人の意見をまとめる ②グループで話し合う ③発表と交流 振り返りと感謝の言葉 	<ul style="list-style-type: none"> 「けがをしている人に、どのような手助けができるか考えてみよう。」 振り返りと感謝の言葉 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【評価】 避難所で助けを必要としている人たちに、どのような手助けができるかを考えられる。 </div>

留意事項

※疑似体験は介助の意味合いに重点を置く。

※車いすを押しながら、コーンを障害物に見立てて移動の困難さを体験させる。

※アイマスクをつけた状態で段ボールベッドに寝てみる。

※足にシーネをつけて床から立ち上がる時の困難さを体験させる。

第5学年 道徳科学習指導案（略案）

日 時 平成30年5月24日（木）4校時

児 童 えりも小学校5年生 児童29名

指導者 前川 由季（5年） 本間 涼華（ひまわり2）

1 主 題 名 「尊い命 D－（19） 生命の尊さ」

【資料名：稲むらの火 （出典：教育出版 こころつないで6）】

2 本時の目標 生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重する心情を育む。（自律性）

3 本校の育成する資質・能力との関係性

本単元では、次の3点を旨とする児童の姿とし、この中で自律性の育成を図る。

主体的な学び：自分の経験をもとに、登場人物に寄り添って気持ちを考えることができる。

〈自分と結び付けて考えている〉

対話的な学び：個々で考えたことを、ペアで交流することができる。

〈多様な考えを交流している〉

深い学び：学習したことをもとに、自分にできることを考えることができる。

〈思考し、解決に向かっている〉

4 展 開

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つかむ 5分	①東日本大震災の映像を見て感じたことを発表する。	・ 大津波の映像を見せ、被害の大きさと恐ろしさを感じられるようにする。	
考える 30分	②資料『稲むらの火』を読み、話し合う。 ○地震が来た時の五兵衛の心情を考える。【主】 T:地震が来た時、五兵衛はどのように思ったでしょう。 S:今までと違って怖い。 津波が来るかもしれない。 逃げなきゃ！ ○稲むらに火をつける時の五兵衛の気持ちを考える。【主】 T:大事な稲むらに火をつけなければいけない時、どのようなことを考えたでしょう。 S:稲むらより、人の命が大切だから仕方がない。稲むらがなくなったら困っちゃうかもしれない。 ◎避難してきた村人たちへの五兵衛の思いを考える。【主】【対】 T:避難してきた人たちを見て、五兵衛はどのようなことを考えたでしょう。 S:みんなの命が助かって良かった。稲むらはなくなったけど、命を助けられてよかった。 ③自分自身について考える。 ○自分の命を守っていくために大切なことを考える。【深】	・ これまでとは違う揺れに対する、不安な気持ちに共感できるようにする。 ・ 稲むらの重要性について捕捉し、燃やしてしまうことに対する葛藤も捉えられるようにする。 ・ 多くの命が助かった喜びについて考えられるようにする。一方で稲むらが燃えてしまったことで、今後の生活が大変になることに気付かせ、生命はかけがえのないものであることに気付かせるようにする。 ・ 避難訓練を想起させ、自分に何ができるかを考えられるようにする。	【評】五兵衛の行動から命のかけがえのなさに気付いている。＜ノート・発言＞ 【評】自分の命を守っていくために大切なことを考えている。＜ノート・発言＞
まとめ 10分	④私たちの道徳『命てんでんこ』を読む。 ⑤振り返りを書く。	・ 自分たちに何ができるか、どのように命をつなげていくことができるか考えながら聞けるようにする。	

第6学年 道徳科学習指導案（略案）

日 時 平成30年5月24日（木）3校時
 児 童 えりも小学校6年生 児童29名
 指導者 粕谷 知希

1 主 題 名 「命をいとおしんで D－（19）生命の尊さ」

【資料名：その思いを受けついで／命てんでんこ（出典：私たちの道徳）】

2 本時のねらい 死の重さや生きることの尊さなどを感じ、防災への意識や自他の生命を尊重する態度を育てる。 （情報活用力・自律性）

3 本校の育成する資質・能力との関係性

本単元では、次の3点を目指す児童の姿とし、この中で情報活用力及び自律性の育成を図る。

主体的な学び： 東日本大震災について、自身の知っていることを周囲と交流することができる。

〈見通しをもって活動している〉

対話的な学び： 田老第一中学校の校歌の歌詞が表す意味について、周囲と考察することができる。

〈共に課題を解決している〉

深い学び： えりも町に起こった震災の被害を、後世の人々にどのように伝えるか考えることができる。

〈知識を習得・活用している〉

4 展 開

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つかむ 10分	① 東日本大震災についての事実を確認する。 ○東日本大震災について自身が知っていること、抱いているイメージを交流する。【主】 T：みなさんは、「東日本大震災」について、どのようなことを知っていますか。 S：2011年3月11日に起きた。 S：まだ授業をやっている時間帯だった。 T：震災が起きたことについて、どのように感じていますか。 S：怖いと思った。 S：いつ起きるか分からないから、備えをすることが大切だと思った。	・学習準備が整っているか確認をする。 ・掲示物（写真）を活用し、短時間で震災について全体で確認しておきたいことを押さえさせるようにする。	
考える 25分	②資料『命てんでんこ』を読み、先人たちの願いについて話し合う。 ○田老町の位置を地図上から読み取る。 T：田老町は岩手県のどのあたりにありますか。 S：津波の被害の大きかったところだ。 S：震災の前までも、被害を受けていたのではないだろうか。 ○校歌の3番の歌詞について、どのような意味があるのか考える。【知】 T：校歌に込められた思いは何でしょうか。 S：「災害に負けず何度でも立ち上がれ」かな。	・地図を用意し、田老町の位置情報と、震災当時の被害状況について押さえさせるようにする。 ・過去にも津波による被害を乗り越えてきたことを確認させる。 ・校歌の歌詞に関しては、掲示物を用意する。	
まとめ 10分	③震災発生当時のえりも町の被害状況について、自分ならどのようなことを後世の人々に残すか考える。 ○えりも町が冠水したときの写真を見て、どのようなメッセージを後世の人々に残すか考える。【深】 T：沢町に水が押し寄せたときの写真です。死傷者は出ませんでした。道路が陥没してしまいました。 S：海が近いから、地震が起きたときはすぐに山に避難することを伝えたいな。 ④本時の振り返りをする。	・えりも町の被害状況が分かる写真資料を用意する。	評 死の重さや生きることの尊さなどを感じ、防災への意識や自他の生命を尊重しようとしている。 <ノート>

第5・6学年 家庭科学学習指導案（略案）

日 時 平成30年5月24日（木）3校時（6年生）・4校時（5年生）
 児 童 えりも小学校5年生 児童29名・6年生 児童29名
 指導者 田邊こずえ（栄養教諭）前川由季（5年）粕谷知希（6年）

- 1 単元名 「災害食を作ろう」
- 2 本時の目標 被災時に身近にある材料で、災害食を作り食事の大切さを知ることができる。
（情報活用力・協働性）
- 3 本校の育成する資質・能力との関連性

本単元では、次の3点を目指す児童の姿とし、この中で情報活用力の育成を図る。

主体的な学び：災害を想定し、自分ができることを考え、災害食作りをすることができる。

＜見通しをもって活動している＞

対話的な学び：災害時の食の課題解決にむけて、協働しようとする姿勢をもつ。

＜共に課題を解決している＞

深い学び：習得した災害食の知識を活用し、災害食作りをすることができる。

＜知識を習得・活用している＞

4 展開

	学習活動	教師の支援と留意点	評価
つかむ5分	<ul style="list-style-type: none"> 地震や台風などの災害が起きた時、何が必要か考える。【主】 食べ物 水 電池 暖をとるもの等 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">災害食を知り、作ってみよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発言から、食べ物に着目させる。 電気や水道が止まりいつものようにご飯を作ることができない時、食事はどうなるのか？ 「米」「うどん」「カップ麺」 「缶詰」「お菓子」 「避難所で用意されている」 災害食はどんなものがあるのか。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">評</div> 災害がおこったら普段通りの生活ができなくなり、食事も作れなくなることに気付く。
考える35分	<ul style="list-style-type: none"> 作り方の説明を聞く。 身支度 手洗い 材料、用具の準備 手順に従って、調理する。【深】【対】 安全と衛生に注意する。 <ul style="list-style-type: none"> 煮ている間、ハイゼックスを使った災害食のレシピの説明をきく。 <ul style="list-style-type: none"> 試食 <ul style="list-style-type: none"> 机上を整えて試食する。 片付け 	<ul style="list-style-type: none"> 調理の手順を説明する。 「ハイゼックス」の使い方について説明（動画を見せる） 事前に袋に粉類を入れておき 甘納豆・チョコ・水は自分で入れて混ぜるようにする。 安全面（ガスコンロの扱い方）に気を付けるよう助言しながら、指導する。 レシピ用意 出来上がりは熱いので火傷に注意するよう補助する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">評</div> 災害食について理解し作ることができる。
まとめ5分	<ul style="list-style-type: none"> 出来具合を振り返り、感想発表 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り、味や作り方についての感想 	

